

花ごよみ

新井婦紗子

水澄むや雲の百態ゆつくりと
参道にゆず味噌の店三千院
石落咲いて庭に始まる花ごよみ
長閑さやいざ鎌倉の道を行く
参道の店々飾る雛かな
自転車の重たきペダル残暑かな
ミステリー深みにはまる夜長の灯
矩尺の話盛りあぐ夏座敷
鰯雲薨の波を包み込む

秋爽や指の先まで深呼吸
新米の粒立ちあがる塩むすび
山茶花の日々の命の咲いて散る
旧友の一句添えたる年賀状
とぐる巻き舌を出したる賀状受く
逆光のいずこにありて轉れり
野の色の濃き日溜りや夏隣
夏近し雨後の山菜丈比べ
薫風やパレード沸かす大銀杏
百歳まで生きるつもりや風かおる
花菖蒲江戸紫の立ち姿